

摩耶山羊齒採集記

大 浦 茂 樹

昭和二十四年十月二十三日、京大の田川基二先生御指導の下に摩耶山植物の採集会を催した。本稿は先生の御指導を具体的に取まどめ、処々に筆者の教育に之を生かせる爲の私見を織込んだものである。によつて個々の植物の見方考え方や、特に類似植物の鑑別の要点を悟り、以て自然研究の妙趣を味い優秀な標品は如何に作るべきか等の参考にしていただけたら幸之に過ぎない。採集は各種植物について行われたのであるが其中から羊齒植物だけを抄き其の主なものだけについて記録したのである。

ミツデウラボシ

- ▽ よく成長したのは葉面三又になる。ウラボシの上にミツデとつけるのは此の葉形に因るのである。
- ▽ 群生している処を注意深く葉形が如何に変化しているかを観察しよう。
- ▽ 葉形変化を順序立てて列べてみる。完全なものは三又次は二又、大きい一のもの、それから次第に小さいとなつている。
- ▽ 標品も斯ういう考えで採集して作るべきである。不完全な一葉だけを貼りつけたものに比しどれ位價值が多いかを悟るであらう。
- ▽ この葉の変化は株の古さ大きさ年令にもよるが、地域的に支配されることが多い。即ち北へ行くと三又が少くなる。形も漸次小さくなる。北海道では一枚の小形のものばかりである。満洲のものも同様である。之をチャボミツデウラボシと呼んでいる。紀州や台湾へ行くと三又の下にもう一つ分れて五又のものがある。移植すると恐らく其の地固有の形に変わってしまうであらう。
- ▽ 縁をよくみると支脈と支脈との間に小さな切れ込みが一つずつあつて、葉面分岐の可能性を暗示している。

イノモトソウとオオバノイノモトソウ

- ▽ 日本から中國へかけて分布する。鶏足草とよんで漢方薬にいられた。
- ▽ 石垣の間や人家の側等に生える。井戸の内側の瓦や石の間にさえよく茂る。名の起りはこゝから。
- ▽ 異つた二種の葉がある。即ち廣いが丈の低い葉(イ)の間に交つて、やせ型にして著しく丈の高い葉(ロ)のあることに注目する。(イ)は裸葉で、廣くて鋭鋸齒があり、(ロ)は孢子葉で全辺。周辺に蘘堆が相連りて褐色に見え、葉縁が之を抱きこむよゝに巻

いている。

- ▽ 葉の形相の著しく違つた(イ)と(ロ)の具つた一株をとつてよく観察し標本にする。
- ▽ 葉柄は細くして三稜を有。羽片は線形、流れて中軸に沿ひ翼となる。
- ▽ オオバノイノモトソウには此の翼状部がない。

ヤブソテツ

此の類には変異が続いているから同種のものにも形の変わりがある。主なる特異点をあげてみる。

- ヤブソテツ …… 葉に光沢なし、下部のりん片大にして光沢あり。
- オニヤブソテツ … 壯大60cm~1m。葉柄の下部褐色、廣卵形の大りん片。
- メヤブソテツ … 葉の數少く、羽片の數も少し、頂生羽片は二裂することあり、葉質よく透視して脈が見える。葉柄はやせてりん片を被る。

イヌワラビ

- ▽ 生育の場所によつて色々変つた形に化ける。
- ▽ 根茎が横にはう。冬は根茎だけ地中で生き地上の葉は枯れる。
- ▽ 葉は軟質羽片には明かに柄がある。
- ▽ 葉の先が急に細くなる。一見ホシダのように見えるものもある。葉の先が二又に分れたものをキンギョヌワラビと呼び、白い斑のはいつたものをニシキヌワラビと呼ぶ。

ヒロハイヌワラビ

- ▽ 中國から日本へかけて分布している。日本の対馬でウオード氏が初めて採集し、英人 Hooker氏が命名したもの。
- ▽ 全形は三角形で、葉の先の羽片急に細くなる。
- ▽ 蘘堆が比較的長く、馬蹄形である。(蘘堆の長いものはトラノオシダ属に多いが、本品はメシダ属であるが長い)

オオヒロハイヌワラビ

- ▽ 前種に似ているが、更に大形で、葉形略正三角形である。

シシガシラ

- ▽ 日本の特産、朝鮮には産しない。台湾には之に似たものがある。
- ▽ 孢子葉と裸葉とがはきりしている。孢子葉(実葉)は孢子が熟して落ちると枯れる。栄養葉(裸葉)は常緑で翌年まで残る。

▽ 中脈の両側に巾の広い白い線が二條ある。之が氣孔の集りである。(他のシダでは氣孔は集らないで一様に散在する)。

▽ 標品には孢子葉と榮養葉の見えたものを選び裸葉の裏面をも現しておく。

イタチシダ

▽ 葉は下部三羽狀、上部三羽裂をなし葉柄並に中軸に黒褐色毛狀のりん片多し。

▽ 葉の外形は三角狀、最下の羽片は最も大にして更にその外側第一次の小羽片は特に著しく大きい。葉の外形は略三角形葉先が急に細くなる(ヤマイタチシダは然らず)。

▽ 子囊群は中脈に近く二列をなし大型の円形。

▽ 苞の周りに毛あるものをキンキイタチシダという。

▽ 小羽片は極めて短い柄を有す。

○ 羽狀複葉の形は草本では割合に規則正しいが、草本では規則正しくはならない。(萱科は別だ。草本でもとても規則的である)イタチシダの第二次羽片の如きも此の例にもれず切れ込みの度合が種々になつてゐる。

Dispteris lisetia ... 仮称ヤマイタチシダ

▽ 和名はまだつけてない。仮にヤマイタチシダと名づけておこう。最初箱根で探つた。本種は山の奥部に生える。鞍馬、貴舟ではイタチシダの類は本種のみである。

▽ イタチシダと違つてゐるのは次の諸点である。

- 1 葉面に光沢が少い。でこぼこに見える。
- 2 葉先がだんだんに細くなつて尖る。前種の如くに急に狭くはならない。
- 3 羽片の基部に接した最後の裂片には鋸齒がない。
- 4 葉縁が多少うらに巻く。
- 5 胞膜は著しく大きい。

ヒメワラビ

▽ 大形にして高さ1.5mに達するが、葉は細裂してうすく、弱々しいからヒメとつけた。

▽ 第二次羽片につく第三次羽片のうち、基部で上に向うものは下に向うものより遙に長い。

ミドリヒメワラビ

▽ 前種に比し羽片の切れ込みが深い。草丈もこの方が大きくなるが、ぼきぼき折れ易い。

▽ 第三次羽片のうち基部のもので、上部に向うものは下方に向うものと同長である。

ベニシダ

▽ 葉は質剛く葉面にガラス様の光沢あり、凹んで袋狀になる。

▽ 小羽片の先端は尖る。

▽ 胞膜は若い時は赤紅色で美しい。

▽ 長い葉柄の基部には暗褐色のりん片あり。羽片の軸のうち基部に近い部にころつしたりりん片あり。

▽ 小羽片には柄なく小葉が支軸に廣がつてついでゐる。

ヒロハベニシダ

▽ 葉は正三角形光沢なし。

▽ 羽片中脈のりん片は平たい。

サイコクベニシダ

▽ 小羽片の支軸への着部は短い柄になつてゐる。

▽ 小羽片の先端は鈍。(尖らず)

其 他

次の諸種についても述べたいが、紙面がないから省略する。

トラノオシダ	シケンシダ	チャセンシダ
イヌシダ	ミゾシダ	タチシノブ
ゲジゲジシダ	ヘビノネゴザ	ホラシノブ
ヒノキシダ	ツルデンダ	イヌガンソク

尙田川先生が採集の所々で、及び午食のあとで皆を集めてお話し下さつた「羊齒類鑑別の基準点」ともいふべき一項を次に摘記して筆をおく。

羊齒類鑑別の基準点

羊齒類の鑑別には基葉の大きさ形状光沢色彩、一次二次三次の羽片の形状、中軸の質太さ剛軟、色調、地下茎の伸び方孢子着生の様子、生地、冬枯常緑の状況等色々あるが、区別しにくいものについて特に注意すべき次の諸点をあげておく、極めて細微な鑑識点である従て度々ルーペを使わねばならぬ。

- 1 藪堆又は孢子の表面に毛があるか……無いか
- 2 毛が直いが……曲つてゐるか
例 ミソシダの毛は皆先が曲つてゐる
- 3 根茎が逼るか……立つか。長いか……短い
例 カナワラビ……根茎長い(2尺にも延びる)
コバノカナワラビ……根茎短い(故に葉が一ヶ所に群る)
ハカタシダ……根茎延びない
- 4 葉の脈が葉縁まで届くか……手前で止るか
例 ハチジヨウシダ……縁まで届く
オオバハチジヨウシダ……縁まで届かぬ(鋸齒の手前で止る)
ハシゴシダ……縁へ届く
ヤワラシダ……縁へ届かぬ(少し手前で止つてゐる)